

熊本県中学校総合体育大会駅伝競走大会 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

熊本県中学校体育連盟

本ガイドラインの作成にあたっては、以下に記したガイドライン等を踏まえて作成したものである。ただし、今後の知見の集積及び新型コロナウイルスの感染状況により、随時見直すことが有り得る。

- ・学校の新しい生活様式（文部科学省）
- ・社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（スポーツ庁）
- ・スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン（日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会）
- ・令和2年度（公財）日本中学校体育連盟 全国中学校体育大会実施上の COVID-19 感染拡大予防ガイドライン（（公財）日本中学校体育連盟）
- ・陸上競技活動再開についてのガイダンス競技会開催について（第1版改訂）（日本陸上競技連盟）
- ・ロードレース再開についてのガイダンス（チェックリスト）」（日本陸上競技連盟）

1. 大会を開催するための条件

(1) 緊急事態宣言が解除されている

- ①移動制限の解除
- ②不要不急の外出自粛の解除
- ③学校において部活動が認められている

(2) 会場地（熊本市）からイベントの開催が認められている

(3) 会場地（熊本市）において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。また、緊急時の後方支援病院がある。

(4) 本大会に関わる方々（参加選手、チーム関係者、大会／競技役員、報道機関）の健康状態の管理体制が整えられている

(5) 国や県、日本陸上競技連盟のガイドラインに沿った大会運営を行う

2. 具体的な対策について

3密を避ける競技運営、ソーシャルディスタンスを確保した会場計画、健康管理体制

(1) 競技運営面

①開閉会式の簡略化

・開会式

開会式は実施しない。競技開始前に簡易的な開始式のみ行う。

・閉会式

全チーム参加による閉会式は実施せず、表彰に該当する学校のみ参加とする。

②競技場内の密を避ける

- ・ 競技場への入場制限・・・競技場内への入場数を制限する。
 - ・ I Dカード配布（当日受付にて配布）
 - 登録選手（男子 10、女子 8）、監督（1）、コーチ（1）
 - 大会／競技役員、参加校（管理職用 1）
 - 保護者（男子 6、女子 5）※応援者は参加人数の 50%程度とする。
 - 教育委員会関係、来賓は 1F 玄関にて受付する。
- ・ スタートおよび中継地点には出走する選手の他、各学校 1 名（監督、コーチ、登録選手のいずれか 1 名）に限り競技場 1F への入場を認める。
- ・ 各学校待機エリアは 3F コンコース（メインスタンドは郡市割り振りを行う。バック・サイドスタンド裏の 3F 部分はフリーゾーンとする。1F 部分は設置禁止。なお、競技場外にテントを設置する場合は補助競技場内を使用すること。）とする。
- ・ 順位速報板は設置せず、「熊本県中学校体育連盟」ホームページでの速報および場内アナウンスにより知らせる。

③更衣室の対応

- ・ 更衣室は補助競技場（男子 1、女子 1）とバックスタンド下の 1F 更衣室（女子 2）を開放する。荷物の管理は各学校の責任で行うこと。
- ・ 更衣後は換気を十分に行う。
- ・ レース終了後、競技役員により換気、消毒を行う。
- ・ 更衣室が密集しないよう、人数および時間を制限する。（担当役員を配置する）

④中継所での対応

- ・ 付添は中継地点に 1 名（監督、コーチ、登録選手のいずれか 1 名）のみとする。
- ・ 招集は第 1 ゲートにて行い、競技役員（または補助員）により誘導する。
 - ❶ 第 1 ゲート下にて競技者点呼係が 15 分前に招集をかける。付添は帯同しない。
 - ❷ 10 分前に中継所役員（招集・出発係）が中継地点へ誘導する。
 - ❸ 道具類は各チームの中継地点にいる付添に渡すか、自分で 104 号室前に置く。
- ・ フィニッシュ後に倒れ込む選手がいる場合、競技役員（競技者・救護係）で介抱を行う。
- ・ 付添はマスク、使い捨て手袋を着用しておくこと。
- ・ 選手はフィニッシュ後中継所に止まらず、予め細案で示した動線に沿って退場すること。
※レース終了後、荷物管理エリアで自分の荷物を受け取り、第 4 ゲートから退場すること。

⑤対策の充実のために

- ・ 消毒液やハンドソープの準備
- ・ 感染拡大防止のための啓発ポスター掲示
- ・ ソーシャルディスタンス確保を呼びかける係員の配置

(2) 参加校、選手

①健康管理体制を充実させる。

- ・ 大会に関わるすべての者（大会／競技役員、登録選手、付添、監督、コーチ）は、大会 1

週間前からの日々の体調管理の徹底を行い、健康管理チェックシートに記録を行う。

- ・競技当日の受付時に、監督は、別紙1（個人健康観察カード）、別紙2（監督提出用チェックシート）の提出をする。（封筒に学校名を記入して提出。別紙1，2は熊本県中体連ホームページよりダウンロードすること。）

- ・下記に該当する場合は大会に参加できないこととする。

ア) 学校が臨時休業期間中である

イ) 大会当日の朝の検温で平熱を超える発熱、倦怠感と息苦しさがある

ウ) 発熱はなくても風邪症状や体調不良、味覚や嗅覚の異常がある

エ) 同居家族に感染が疑われる人がいる。または感染が確認された人の濃厚接触者である

オ) 保健所の指導により自宅待機を命じられている

※いずれにしても参加校の校長、監督等の適正な判断が必要である。競技会全体の安全な開催を考え、選手の状況を把握し、判断する。

②本大会における感染防止対策の理解と同意書の提出

- ・各参加校は、本大会の感染防止対策ガイドラインおよび注意事項（申し合わせ事項等）を選手および保護者に丁寧かつ確実に説明をすること。その理解のもとで参加同意書の提出を求めること。
- ・各学校で登録選手分の同意書（別紙4）をとりまとめ、校長が確認する。確認後、参加申込書に公印を押すこととする。（別紙4は熊本県中体連ホームページよりダウンロードすること。）
- ・同意書は各学校において保管すること。

③原則としてマスクの着用を行うこと。選手についてはウォーミングアップ時、レース時は、その限りではない。（監督、コーチも同様である）

④監督、コーチは選手をはじめとしたチーム関係者に体調不良の有無を確認する声かけをこまめに行うなど、解散時まで選手の健康観察を徹底する。

⑤選手、付添が体調不良等を訴えた場合に備え、保護者との連絡体制の確認をとっておく。

⑥マスク、消毒液等の感染防止対策に必要なものは、各学校においても準備、持参すること。

⑦大会終了後も各学校において2週間の健康観察を徹底すること。（健康観察カードは各学校使用のものでよい。）

（3）応援者（保護者、応援生徒等）

①競技場内に入場できる保護者は男子チーム6名、女子チーム5名までとする。IDカードを出場校に配布する。IDカードがない応援者は競技場内に入場できない。競技場内に入場する際には、受付にて検温し、別紙3（来場者体調記録表）に必要事項を記入すること。

（別紙3については予め熊本県中体連ホームページよりダウンロードしておくこと。）

②応援の際は密集せず、ソーシャルディスタンスを確保する。沿道で応援する場合も、隣の人との距離を十分にとって行うこと。

③原則として、応援者もマスク着用をする。ただし、熱中症が心配される場合も想定されるため、周りとの距離が十分確保できる場合は、その限りではない。

④沿道から大声での声援を送らない。

- ④登録選手以外の応援のみの生徒の来場を控えること。
- ⑤レース中、場所を移動しての応援を禁止する。
- ⑥新型コロナウイルス接触確認アプリをインストールしておくこと。

3 感染者および感染が疑われる人が確認された場合の対応

- (1) 医療関係者を救護役員として要請する。(熊本県医師会と連携)
- (2) 感染および感染が疑われる場面は、医療関係者に相談し、速やかに対応にあたる。

熊本県：新型コロナウイルス感染症専用相談窓口（24 時間対応） TEL096-300-5909
 熊本市にお住まいの方：熊本市新型コロナ相談センター TEL096-364-3222、096-372-0705

4 その他

大会主催者としてできる限りの感染予防対策をとり、大会運営を行う。参加校、または応援者を含むすべての来場者においても、本大会の感染予防対策を遵守し、感染予防を徹底して行うよう、周知徹底を図る。

場面	課題等	対策	備考
大会前	①選手の健康管理 ②感染予防の徹底を図る ③応援者の健康管理	① 1 週間前から体調管理チェックシートに記入。 ①各学校で管理し、競技当日の受付にて提出する。 ②感染対策、申し合わせ事項を事前に周知徹底 ③各学校において入場する保護者の確認と健康管理	①体調が優れない場合は参加を見合わせる。 ②同意書の提出 ③様式は HP よりダウンロードする。
会場	①待機中（競技場内）の密集 ②感染防止対策 ③開会式での密集 ④閉会式での密集 ⑤中継所での密集 ⑥更衣室の密集	①設置場所を予め設定する。 入場の制限をかける ②啓発用ポスターを掲示 消毒液、ハンドソープの設置 トイレ等の定期的な消毒 ③実施しない。 簡易的な開始式を実施 ④表彰対象校のみ参加。 内容の簡略化（短時間で） ⑤付添は監督、コーチ、登録選手より 1 名認める。 マスク、消毒の徹底 ⑥補助競技場、バックスタンド下の更衣室の利用	①郡市割り振りあり。 ②消毒液等は各学校でも準備する ⑥人数の制限を行う
競技	①スタート地点の密集 ②招集方法の工夫 ③フィニッシュ後に倒れ込む競技者の介抱 ④記録掲示板での密集	①選手以外の立入禁止区域設定 ②2 回に分けて行う。 ③競技役員が対応。マスク、使い捨て手袋を準備。 ④中体連 HP 速報版を利用する	①ソーシャルディスタンスの確保